

第1章 総論

1 策定の趣旨

第7期・第8期のひろしま高齢者プランでは、「団塊の世代」全てが75歳以上となる令和7（2025）年及び「団塊ジュニア世代」が65歳以上となる令和22（2040）年を見据え、人生100年時代を健やかに生きがいを持って暮らすための「高齢者の『欲張りなライフスタイルの実現』を応援する環境づくり」や、住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすための「地域包括ケアシステムの充実」などに取り組んできました。

第9期ひろしま高齢者プランでは、計画期間中に令和7（2025）年を迎えることとなりますが、高齢者人口がピークを迎える令和22（2040）年に向けて、

- ▷介護ニーズの高い85歳以上の人口が急速に増加すること
- ▷生産年齢人口の減少は加速し、労働力の制約が厳しさを増すこと

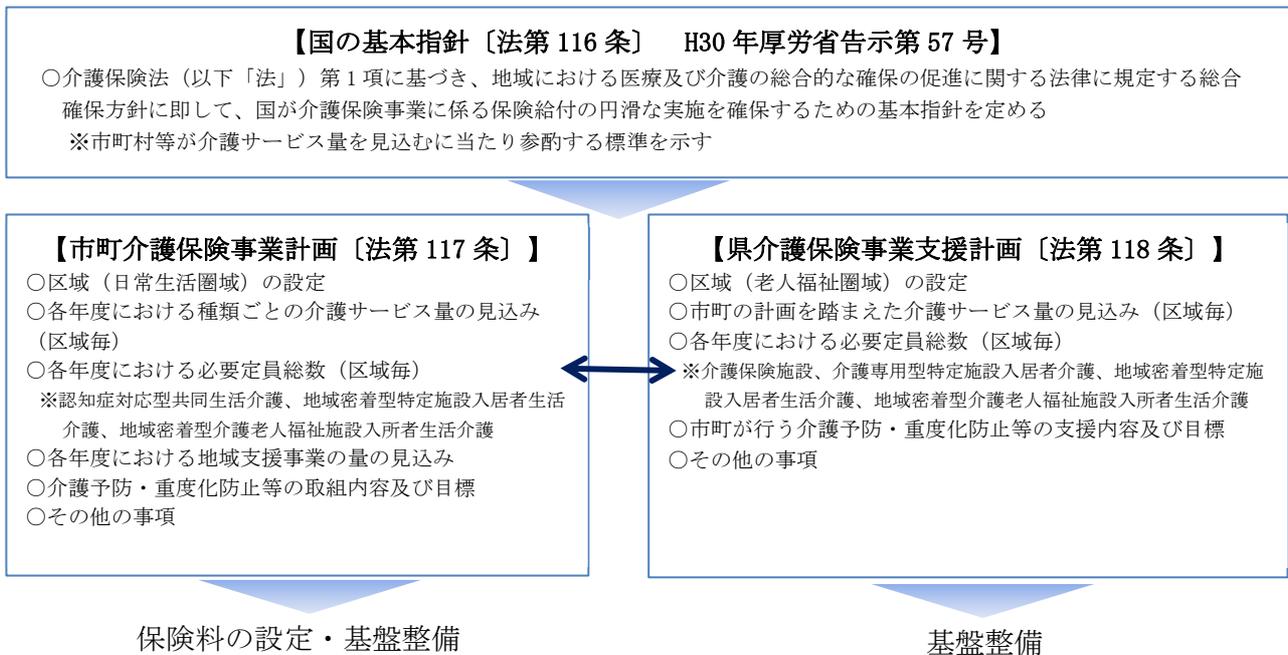
が見込まれるため、「介護保険制度の持続可能性の確保」や「市町ごとの地域差」といった視点を踏まえつつ、取り組むべき施策について取りまとめました。

2 プランの位置付け

（1）法的根拠

本県における高齢者施策の基本となる計画であり、老人福祉法第20条の9第1項に基づく「都道府県老人福祉計画」及び介護保険法第118条第1項に基づく「都道府県介護保険事業支援計画」として、一体的に策定したものです。「第6期広島県介護給付適正化計画」も包含します。

図表 1-2-1 法的に規定されている記載事項等



※総量規制：県・市町ともに指定権限のある施設等について必要定員総数を超える場合に指定等をしないことができる

(2) 計画期間

令和6（2024）年度から令和8（2026）年度までの3年間とします。

なお、計画期間は3年間で1期としますが、介護保険料の改定等に影響しない項目については、6年間を見据えた内容としています。

また、「第10期」策定時は、「別表」を改定し、「別表」以外の項目については、中間的な見直しにおいて、適宜改定を行うものとします。

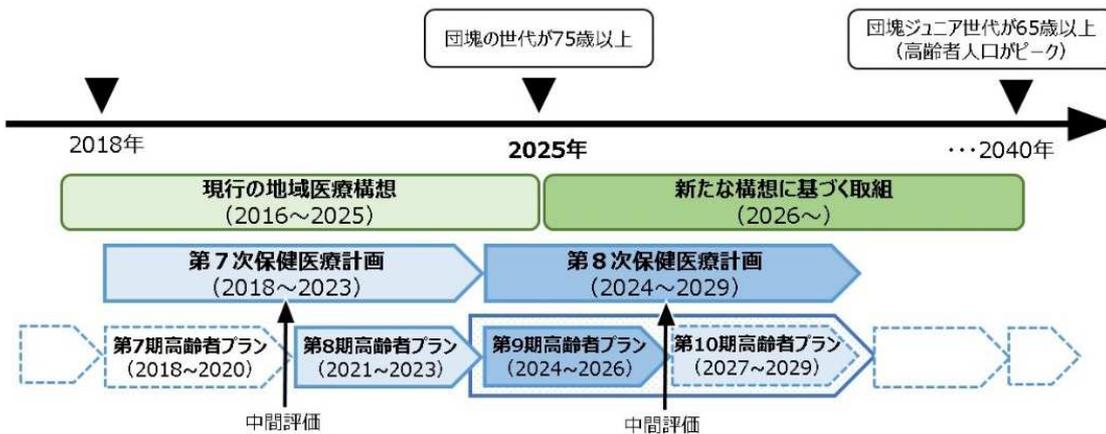
図表 1-2-2 第9期と第10期における改定項目

項目	第9期	第10期
第1章 総論	○	—
第2章 人生100年時代 健やかに生きがいを持って暮らす	○	—
第3章 住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らす	○	—
第4章 災害・感染症対策の推進	○	—
別表 サービス量の見込み・目標等	○	○
資料編 参考資料（データ集）	○	—
用語の解説	○	—

(3) 保健医療計画との整合

医療・介護サービス提供体制を一体的に確保・維持するため、「第8次広島県保健医療計画」との整合を図っています。

図表 1-2-3 高齢者プランと保健医療計画の計画期間

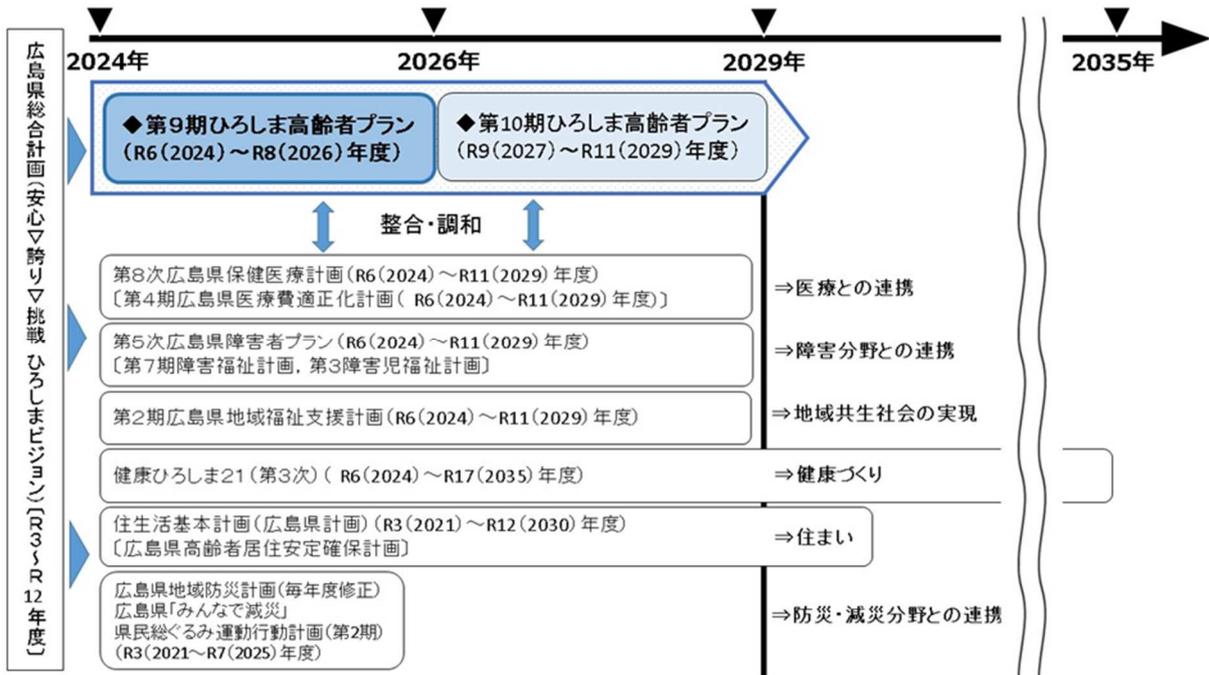


(4) 他計画との整合・調和

広島県総合計画「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」に沿って策定し、高齢者の健康づくり、住まい、障害分野、地域共生社会の実現、防災・減災に関する各計画との整合・調和を図っています。

市町の老人福祉計画・介護保険事業計画の数値を基礎とし、当該計画の達成を支援するための施策や、市町が行う介護給付等に要する費用の適正化の取組への支援を盛り込んでいます。

図表 1-2-4 他計画との整合・調和



3 2025年・2040年の広島県の姿（人口構造等）

団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年は、次のような見通しとなります。

- ☑ 高齢者人口（65歳以上）がピークを迎えるとともに、介護ニーズの高い85歳以上人口もピークを迎え、総人口の1割近くになる。
- ☑ 支え手となる生産年齢人口は、2020年との比較で約31.5万人（19.4%）減少する。
- ☑ 世帯主が高齢者の単独世帯が増加し、総世帯の17.7%を占める。
- ☑ 認知症の人が2020年との比較で約1.3倍となる。

2020年・2025年・2040年の広島県の姿



出典：人口推計：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（R5（2023）年推計）」
 世帯数推計：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）」（H31（2019）年推計）
 R2（2020）年12月要介護認定者数：厚生労働省「介護保険事業状況報告（暫定）」
 2025年・2040年要介護認定者数：介護保険サービス見込量等の推計
 認知症人数推計：「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究 平成26年度総括・分担報告書」（H27（2015）年3月：厚生労働科学研究費補助金・厚生労働科学特別研究事業、研究代表者 二宮利治）
 における「各年齢層の認知症有病率が2012年以降一定と仮定した場合」の推定有病率に、「日本の地域別将来推計人口（R5（2023）年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）における本県の高齢者人口を乗じた数値（100未満四捨五入）

2020年と2040年を比較すると、人口構造が変化するスピード等に地域差が生じています。

- ☑ 高齢者人口が減少する市町は16市町（★印）
- ☑ 高齢者人口全体では減少するものの85歳以上人口が増加する市町は、12市町
- ☑ 高齢者一人を支える人数が0.5人以上マイナスとなる市町は、都市部の4市町（☆印）

市町別人口構造等の推計 【2020年 から 2040年】

65歳以上 ↘
85歳以上 ↘

庄原市
安芸太田町
大崎上島町
神石高原町

65歳以上 ↘
85歳以上 ↗

呉市、竹原市
三原市、尾道市
府中市、三次市
大竹市、安芸高田市、
江田島市、熊野町、
北広島町、世羅町

65歳以上 ↗
85歳以上 ↗

広島市
福山市
東広島市
廿日市市
府中町、海田町、坂町

	高齢者人口の推計					高齢者一人を支える人数 (生産年齢人口/高齢者人口)				
		R2 2020	R7 2025	R22 2040	R22-R2 2040-2020	R2 2020	R7 2025	R22 2040	R22-R2 2040-2020	
広島県	65歳以上 (うち85歳以上)	823,098 (144,871)	829,336 (162,011)	858,115 (231,856)	35,017 (86,985)	1.97	1.88	1.52	▲ 0.45	
広島市	65歳以上 (うち85歳以上)	308,586 (48,592)	319,720 (58,543)	366,750 (92,394)	58,164 (43,802)	2.38	2.25	1.69	▲ 0.69	☆
呉市	65歳以上 (うち85歳以上)	76,207 (13,812)	72,852 (15,105)	64,623 (17,975)	▲ 11,584 (4,163)	1.51	1.42	1.16	▲ 0.35	★
竹原市	65歳以上 (うち85歳以上)	10,112 (2,035)	9,724 (2,207)	8,032 (2,604)	▲ 2,080 (569)	1.16	1.04	0.77	▲ 0.39	★
三原市	65歳以上 (うち85歳以上)	32,282 (6,551)	31,506 (6,637)	28,762 (8,670)	▲ 3,520 (2,119)	1.48	1.35	1.11	▲ 0.38	★
尾道市	65歳以上 (うち85歳以上)	47,817 (9,317)	46,437 (9,527)	40,572 (11,902)	▲ 7,245 (2,585)	1.44	1.40	1.27	▲ 0.17	★
福山市	65歳以上 (うち85歳以上)	133,580 (22,102)	135,585 (25,761)	141,171 (38,386)	7,591 (16,284)	2.00	1.87	1.58	▲ 0.41	
府中市	65歳以上 (うち85歳以上)	14,384 (2,898)	13,967 (3,060)	12,342 (3,889)	▲ 2,042 (991)	1.35	1.22	0.94	▲ 0.40	★
三次市	65歳以上 (うち85歳以上)	18,550 (4,571)	17,984 (4,219)	16,592 (5,186)	▲ 1,958 (615)	1.41	1.34	1.15	▲ 0.26	★
庄原市	65歳以上 (うち85歳以上)	14,596 (3,968)	13,650 (3,648)	10,311 (3,674)	▲ 4,285 (▲ 294)	1.07	0.99	0.97	▲ 0.10	★
大竹市	65歳以上 (うち85歳以上)	9,423 (1,883)	9,216 (2,015)	8,243 (2,524)	▲ 1,180 (641)	1.49	1.42	1.22	▲ 0.27	★
東広島市	65歳以上 (うち85歳以上)	46,272 (7,724)	48,413 (8,617)	56,429 (13,998)	10,157 (6,274)	2.67	2.56	1.96	▲ 0.71	☆
廿日市市	65歳以上 (うち85歳以上)	35,129 (5,954)	36,606 (6,665)	37,757 (10,975)	2,628 (5,021)	1.82	1.68	1.39	▲ 0.43	
安芸高田市	65歳以上 (うち85歳以上)	11,119 (2,762)	10,647 (2,531)	9,012 (3,132)	▲ 2,107 (370)	1.14	1.08	0.90	▲ 0.24	★
江田島市	65歳以上 (うち85歳以上)	9,582 (1,964)	8,873 (1,964)	6,538 (2,194)	▲ 3,044 (230)	1.12	1.07	0.95	▲ 0.16	★
府中町	65歳以上 (うち85歳以上)	12,724 (1,945)	13,281 (2,467)	14,910 (3,630)	2,186 (1,685)	2.43	2.29	1.74	▲ 0.69	☆
海田町	65歳以上 (うち85歳以上)	7,092 (981)	7,119 (1,263)	7,745 (1,930)	653 (949)	2.56	2.52	2.04	▲ 0.52	☆
熊野町	65歳以上 (うち85歳以上)	8,151 (968)	7,842 (1,437)	7,064 (2,050)	▲ 1,087 (1,082)	1.45	1.44	1.18	▲ 0.26	★
坂町	65歳以上 (うち85歳以上)	3,719 (635)	3,606 (690)	3,742 (963)	23 (328)	1.89	1.92	1.50	▲ 0.39	
安芸太田町	65歳以上 (うち85歳以上)	2,991 (836)	2,710 (757)	1,883 (674)	▲ 1,108 (▲ 162)	0.76	0.71	0.67	▲ 0.10	★
北広島町	65歳以上 (うち85歳以上)	6,963 (1,786)	6,713 (1,657)	5,949 (1,848)	▲ 1,014 (62)	1.29	1.25	1.09	▲ 0.20	★
大崎上島町	65歳以上 (うち85歳以上)	3,322 (781)	2,912 (729)	2,035 (694)	▲ 1,287 (▲ 87)	0.99	1.04	1.11	0.12	★
世羅町	65歳以上 (うち85歳以上)	6,438 (1,592)	6,232 (1,469)	4,997 (1,629)	▲ 1,441 (37)	1.10	1.02	0.95	▲ 0.16	★
神石高原町	65歳以上 (うち85歳以上)	4,059 (1,214)	3,741 (1,043)	2,656 (935)	▲ 1,403 (▲ 279)	0.86	0.80	0.76	▲ 0.10	★

出典：人口推計：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（R5（2023）年推計）」

4 特に考慮が必要な社会情勢の変化

(1) 人生 100 年時代の到来

これから高齢期を迎える世代には、健康維持、働き方、生き方などについて、従前とは異なる高齢者像を踏まえた人生設計が問われており、元気な高齢者が「支える側」として社会で活躍することが期待されています。

高齢者が意欲や能力に応じて社会で役割を持ってより長く活躍できるよう、多様な就労・社会参加ができる環境整備を進めることが必要となります。

(2) (後期) 高齢者単独世帯・高齢夫婦世帯等の更なる増加

見守り・安否確認、外出支援、買い物・調理・掃除等の生活支援が必要な方の増加が見込まれます。

また、重度の要介護者や認知症の高齢者の増加に伴い、医学的管理下での介護、緩和ケア、看取り、認知度ケアなど、医療・介護サービスの需要も高まる見込みです。

(3) 生産年齢人口の減少

2040 年に向けて高齢者人口の増減に地域差がみられる一方で、生産年齢人口は、減少幅は異なるものの全市町で減少する見込みであり、介護分野においても人材不足が課題となっています。

(4) 介護需要の地域差

介護需要の増加が見込まれる都市部においてはサービス提供体制の確保が求められる一方で、既に高齢者人口が減少局面に入った市町では限られた地域資源を活用した機能の維持・確保を図ることが必要となります。

また、施設の老朽化、人材不足等に直面する中で、限られた地域資源を最適化する取組が求められています。

(5) デジタル技術の進展

介護現場においても業務やサービスの一部をデジタル化することで、生産性の向上や介護従事者の負担軽減が図られ、介護業界全体に普及することにより、慢性的な人材不足への好影響が期待されています。

また、医療・介護等の多職種が、患者・利用者の診療・ケア情報をデジタルデータとして共有し、効率的かつ的確に把握することで、切れ目のないサービス提供を行うなど、サービスの質の向上が期待されています。

(6) 災害や新興感染症等への懸念

頻発する大規模災害や新型コロナウイルス感染症への対応を活かした、住民、事業者、行政が一体となった「災害や新興感染症等への対応力」の一層の強化が求められています。

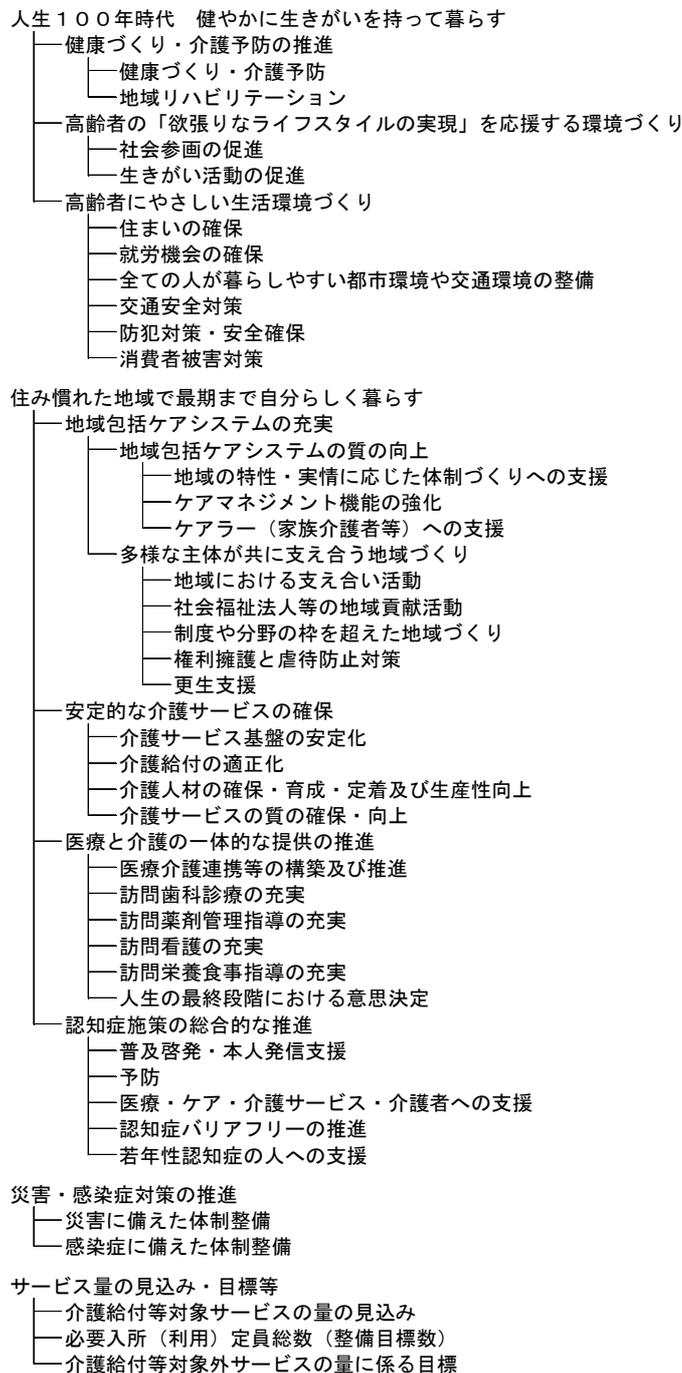
(7) 地域共生社会の実現

高齢者の地域生活を支える地域包括ケアシステムの深化・推進の取組を、高齢者自身の力や住民相互の力も引き出して「支え手」、「受け手」という関係を超越、全ての人が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる地域共生社会の実現につなげていくことが求められています。

5 基本理念・目指す姿

基本理念
高齢期になっても 健やかに 自分らしく輝き 住み慣れた地域で 安心して暮らし続けることができる 広島県づくり ～みんなで創る 住みよい “まちづくり”～
目指す姿
1 変わりゆく住み慣れた地域で、健やかに、自分が満足を感じるライフスタイルで日々を暮らし、地域の中で自分なりの役割を持って人々と関わることができる環境が整っている。 2 心身の不調や衰えがあっても、必要な支援を受けながらできるだけ自立を維持し、重度化を防ぐことができる環境が整っている。 3 重度化が進んだとしても、自分の尊厳を保ちつつ医療・介護・生活支援などの必要なサービスを受けて心安らかに過ごし、自分の望む場所と形で最期を迎えることができる環境が整っている。

6 施策体系



7 目標の達成状況の点検等

計画の実効性を高める観点から、現状や目標に係る定量的な指標を設定するとともに、定性的な評価の結果等も踏まえ、各事業や取組を総合的に点検・改善しながら計画を推進します。

8 老人福祉圏域・日常生活圏域の設定

(1) 老人福祉圏域の設定

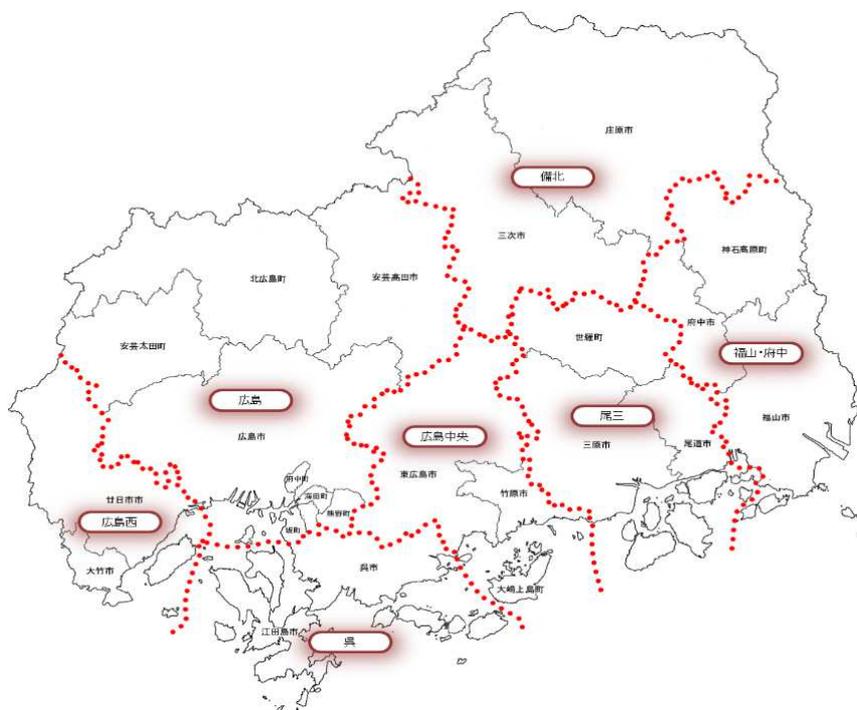
市町の区域を超える広域的な調整を図るため、県内に7つの老人福祉圏域を設定し、圏域ごとに保健福祉サービスの確保や介護保険サービス量の見込みを定めます。

老人福祉圏域は、保健・医療・福祉・介護の総合的な連携を図るため、「広島県保健医療計画」の二次保健医療圏と合致させています。

図表 1-8-1 広島県の老人福祉圏域

老人福祉圏域	構成市町村	総人口	高齢者人口	高齢化率
広島	広島市 安芸高田市 府中町 海田町 熊野町 坂町 安芸太田町 北広島町	1,354,735 人	361,389 人	26.7%
広島西	大竹市 廿日市市	142,283 人	45,600 人	32.0%
呉	呉市 江田島市	230,634 人	85,176 人	36.9%
広島中央	竹原市 東広島市 大崎上島町	220,961 人	60,110 人	27.2%
尾三	三原市 尾道市 世羅町	234,328 人	86,290 人	36.8%
福山・府中	福山市 府中市 神石高原町	505,496 人	152,188 人	30.1%
備北	三次市 庄原市	82,186 人	32,424 人	39.5%
全県		2,770,623 人	823,177 人	29.7%

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯(令和5年1月1日現在)」



(2) 日常生活圏域の設定

日常生活圏域とは、市町介護保険事業計画において、地理的条件、人口、交通事情などを勘案して定める区域のことです。国では概ね 30 分以内に必要なサービスが提供される区域としています。県全体では 125 圏域が設定されています。

認知症対応型共同生活介護等の地域密着型サービスのサービス量の見込みについては、日常生活圏域を単位として設定されています。